

ランキング：圏外

日高中津分校 公

①日高郡日高川町②春1回(0勝1敗)③垣内哲也(元西武ほか)、芝崎和広(元西武)、木本幸広(元ロッテ)、濱矢廣大(楽天)④東北福祉大、中部学院大、関西国際大ほか

歴史は古く1949年に日高高校の分校として開校。その後、野球部はじりじりと力をつけ、97年センバツに悲願の初出場。全国的にも分校として初の甲子園とあり、当時大きなニュースとなった。近年も各大会で上位に顔をのぞかせることは珍しくなく、夏はここまで5度決勝進出。しかし、まさにあと一步の戦いを続けながら、これまでは高い壁に阻まれてきた。練習施設、環境には恵まれており、個々の能力が高い選手も例年交じる。チームとしてのまとまり、束になった時のプラスαを出していれば一皮むけた戦いが見られるはず。いつその時が来るか。

ランキング：圏外

高野山 私

①伊都郡高野町②春1回(0勝1敗)夏1回(0勝1敗)③山田真実(元近鉄)④上武大、日本体育大、金沢学院大、九州共立大など

学校は一昨年開創1200年を迎えた高野山にある。周辺の高野山町石道と山内の6つの建造物が熊野、吉野、大峯と共に「紀伊山地の霊場と参詣道」としてユネスコ世界遺産に登録。外国人観光客の姿が溢れる町中から少し奥まったところで選手たちは日々の練習を行っている。1966年春と88年夏に甲子園出場。公立志向の強い和歌山では選手集めに苦労もあるが、寮も備え野球に打ち込める環境は十分。好投手が育つ流れがあり、昨年、一昨年は2年連続で近畿大会出場。まさにあと一步のところにおり、智辯和歌山出身・川西優登監督の腕の見せどころ。

ランキング：4位

桐蔭 公

①和歌山市②春16回(13勝15敗)夏20回(32勝18敗)③西本幸雄(元毎日)など④和歌山大など

本文でも触れたが高校野球創世記の強豪中の強豪。夏の県大会は県内で唯一、全国でも15校しかない第1回大会からの連続出場を続けている。まさに高校野球の歴史とともに歩んできた野球部とっていいだろう。流れる時の中で、進学校としての側面も強まり、“古豪”のポジションに追いやりながらも意識高く練習を重ねてきた。その結果、2015年春は21世紀枠で1986年夏以来の甲子園出場。OB、マスコミ、地元も大いに盛り上がった。来年は夏の全国大会が100回の節目を迎え、再びスポットを浴びる機会も多くなるだろう。勉強と野球をやりきった先に何を見せてくれるのか。

ランキング：圏外

和歌山東 公

①和歌山市②なし③なし④立正大、東北福祉大、金沢学院大、日本経済大など

軟式野球部から硬式へ変わり8年。歴史は浅いが、和歌山商で甲子園経験を持つ米原寿秀監督が創部当初から指揮を執り、まさにメキメキ力をつけてきた。いまや市和歌山、箕島らとともに智辯和歌山を追う2番手グループの一角を占める。チーム一丸の戦いにこだわり、そのためにも心を磨き、人間力を鍛える教えを徹底。生活面にも熱く目を配る。創部3年目の2013年夏にベスト4。2014年春には智辯和歌山を準々決勝で苦しみ、秋には近畿大会出場。一昨年も近畿大会へ進むも2度目の初戦敗退。夏もベスト4……。悔しさを重ねた分、大きな喜びが待っているはず。

ランキング：圏外

初芝橋本 私

①橋本市②夏1回(0勝1敗)③黒瀬健太(ソフトバンク)④流通経済大、愛知学院大、大阪経済大、大阪産業大、天理大、京都学園大、奈良学園大、羽衣国際大ほか

校庭緑化計画の一環として全校生徒で植えた外野の天然芝が鮮やかなグラウンドを持つ。率いるのは芝野恵介監督。前任の金光大阪では投手指導に定評のある熱血コーチとして知られていた人だ。「和歌山で1番強いチームの前に、和歌山で1番いいチームになろう」と取り組んできたチームは、戦いの結果にも楽しみが見え始めている。今春は智辯和歌山に3対5、夏は市和歌山に2対4。心と技を磨き、大きな花をいつ咲かせるか。学校は和歌山県の最北端にあり大阪から電車で50分のベッドタウン。大阪の選手が多いのはそのためだ。

ランキング：圏外

紀央館 公

①御坊市②春3回(2勝3敗)③吉本亮(元広島ほか)④徳山大、中部学院大、金沢学院大、関西外国語大ほか

旧校名は御坊商工。1980年代の甲子園の風景を知る者なら“ゴボウ”の響きに懐かしい空気が蘇るはず。80年代の2度を含め甲子園出場は3度。81年春にはベスト8まで勝ち進んだ。2003年の校名変更以降もしばらくは静かな戦いが続いたが、近年は2012年春ベスト4、2014年夏ベスト4、2015年夏ベスト8ときて昨春が準優勝。26年ぶりの近畿大会では智辯学園に完敗を喫するも、大きな経験を積むとこの夏もノーマークから勝ち上がり準優勝。最後は智辯和歌山をあと一打というところまで追いつめた。残念ながら秋は序盤で敗れたが復活の流れを止めたくない。

Column

全国的にも珍しい？
和歌山の私学事情

公立県である和歌山に私学は智辯和歌山、高野山、初芝橋本、近大新宮、和歌山南陵、慶風(通信制)の6校のみ。和歌山の中学球児や関係者の中には「私学に行くなら力をつけて智辯から声がかかる選手になる。智辯に行けないなら近くの公立で野球も頑張る」という考えがあると聞く。結果、公立のレベルの高さを平均的に維持する一方で、智辯和歌山以外の私学には悩ましい状況と言える。

また、近大新宮や高野山などは市街地から遠いというハンデがあり、寮を持たない初芝橋本は通学の便がいい大阪の選手が私学無償化の余波を受ける。智辯和歌山以外の私学からの甲子園は1966年春、88年夏の高野山、2001年夏の初芝橋本のみ。4度目はいつか。

Column

弱小校、がない和歌山
その他の有力校

今夏の参加校数は39校と数は少ないが粒ぞろい。紀北工は秋初戦敗退も昨春ベスト4を経験の2年生右腕が2人残り投手力は高い。冬を上手く乗り切れれば楽しみだ。2012年夏に決勝へ進み智辯和歌山に食い下がった那賀も一発を秘める。智辯和歌山に打ち勝つチームを目指し磨いている打力は伝統だ。今春、一昨年春に4強、3年前の夏に8強の田辺と、今夏8強、一昨年夏に4強の田辺工。進学校と技術系と校風は違うが近隣で刺激し合い各大会での頑張りが目立つ。日本ハム、オリックス2軍監督などを務めた岡本哲司監督が指揮を執り、昨夏から大会参加の和歌山南陵。昨夏、今春、夏、秋とことごとく智辯和歌山に敗れているが、その経験をどう活かしてくるか。